

# スキル科目

| 授業科目         | 講義題目                                  | 単位 | 担当教員氏名   | 曜日・講時       | 平成30年度以前入学者<br>読替先授業科目 |
|--------------|---------------------------------------|----|--|-------------|------------------------|
| 研究倫理特論       | 研究と実践の倫理                              | 2  | 原  塑.戸島  貴代志.阿部  恒之.<br>浜田  宏.坂井  信之.辻本  昌弘.<br>小泉  政利 | 前期 水曜日 5講時  |                        |
| 西洋古典文化特論     | 西洋古典思想とパイディア                          | 2  | 篠澤  和久   | 後期 月曜日 2講時  |                        |
| 人文社会科学研究Ⅰ    | 大衆文化・アダプテーションを<br>めぐる研究著書の解説と翻訳       | 2  | KOPYLOVA  OLGA   | 前期 金曜日 3講時  |                        |
| 人文社会科学研究Ⅱ    | 大衆文化とポピュラー・メディア<br>をめぐる研究著書の解説と翻<br>訳 | 2  | KOPYLOVA  OLGA   | 後期 金曜日 3講時  |                        |
| 英語発表技能演習     | 英語の学術発表                               | 2  | CRAIG  CHRISTOPHE                                      | 後期 火曜日 4講時  |                        |
| 英語研究論文作成法Ⅰ   | Advanced Academic Writing Ⅰ           | 2  | PHILLIPS  MAX  | 前期 水曜日 4講時  |                        |
| 英語研究論文作成法Ⅱ   | Advanced Academic Writing Ⅱ           | 2  | PHILLIPS  MAX  | 後期 水曜日 4講時  |                        |
| 日本語研究論文作成法Ⅰ  | アカデミックライティングの基礎                       | 2  | 高橋  亜紀子  | 前期 火曜日 2講時  |                        |
| 日本語研究論文作成法Ⅱ  | アカデミックライティングの書き<br>方                  | 2  | 高橋  亜紀子  | 後期 火曜日 2講時  |                        |
| 日本語理解表現スキルⅠ  | 読解力と口頭表現能力の改善                         | 2  | 小河原  義朗  | 前期 火曜日 5講時  |                        |
| 日本語理解表現スキルⅡ  | 読解力と口頭表現能力の改善                         | 2  | 小河原  義朗  | 後期 火曜日 5講時  |                        |
| 日本語・日本文化論特論Ⅰ | 日本文化論:大衆文化とファンダ<br>ムⅠ                 | 2  | KOPYLOVA  OLGA   | 前期 木曜日 4講時  |                        |
| 日本語・日本文化論特論Ⅱ | 日本文化論:大衆文化とファンダ<br>ムⅡ                 | 2  | KOPYLOVA  OLGA   | 後期 木曜日 4講時  |                        |
| 人文統計基礎演習     | 人文社会科学研究と社会貢献<br>のための統計学入門            | 2  | 木村  邦博   | 前期 月曜日 2講時  |                        |
| キャリア設計演習     | キャリア・イメージを作る                          | 2  | 猪股  歳之   | 後期 木曜日 3講時  |                        |
| 科学技術社会論実践演習  | デジタル×サステナブル社会を<br>デザインする              | 2  | 直江  清隆   | 前期集中 その他 連講 |                        |
| アーカイブズ学研究演習  | アーカイブズ学研究法                            | 2  | 加藤  諭  | 前期 木曜日 2講時  |                        |
| デジタルアーカイブ特論  | デジタルアーカイブの基礎と活<br>用                   | 2  | 田村  光平   | 後期 木曜日 3講時  |                        |
| 人文社会科学特別講義Ⅰ  | Occultism and Modernity               | 1  | Henrik Bogdan  | 前期集中 その他 連講 |                        |

**科目名：研究倫理特論／ Research Ethics (Advanced Lecture)**

**曜日・講時：**前期 水曜日 5講時

**セメスター：**1 学期 **単位数：**2

**担当教員：**原 塑、戸島 貴代志、阿部 恒之、浜田 宏、坂井 信之、辻本 昌弘、小泉 政利、文学研究科教員

**コード：**LM13503, **科目ナンバリング：**LAL-OAR507J, **使用言語：**日本語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

**1. 授業題目：**研究と実践の倫理

**2. Course Title (授業題目)：**Research Ethics

**3. 授業の目的と概要：**科学研究は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、他方、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、人びとを誤った仕方で行ったりすることもあります。そのため、研究に従事する人々（大学生を含みます）は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行う研究や研究発表を行なう責任を負っています。特に、人文社会科学では、実験・質問紙調査・フィールドワーク・聞き取り調査・歴史資料・インターネット情報の収集など様々な手法で研究が行なわれるため、多様な倫理的問題に対処しなければなりません。この授業では、研究倫理と公正な研究に関する基礎を講義し、その上で、それぞれの研究手法に応じた倫理的問題とその問題への対処方法について複数教員が担当し、解説します。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：**In this course, the theoretical basis of research ethics and integrity, as well as ethical problems typical of various research fields of humanities and social sciences are discussed.

**5. 学習の到達目標：**研究倫理と公正な研究について理解し、その理解に基づいて、研究を実践できるようになることが、この授業の到達目標です。より具体的な到達目標は以下の通りです。

1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。
2. 実験・調査参加者や、その他の関与者の権利を尊重する必要性、そのために考慮すべき事項や手続きを理解し、その知識に基づいた研究活動を行なうこと。
3. 責任ある仕方で行う研究を実施するために研究者が遵守すべき様々な規範と、その規範を遵守すべき理由を理解した上で、その規範を遵守すること。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)：**To understand research ethics and integrity, and to be able to practice research based on that understanding.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

この科目は、オンライン、非同期授業（主としてオンデマンド型遠隔授業）として実施します。  
授業内容は以下の通りです。

- 第1回：イントロダクション（担当：原塑）  
第2回：人間と技術（担当：戸島貴代志）  
第3回：科学と倫理（担当：戸島貴代志）  
第4回：人を対象とした医学系研究における倫理（担当：坂井信之）  
第5回：心理学実験における倫理（担当：坂井信之）  
第6回：質問紙調査研究の実践と倫理（担当：浜田宏）  
第7回：研究倫理を踏まえた質問紙調査法改善の動向（担当：浜田宏）  
第8回：フィールドワークにおける倫理の基本原則（担当：辻本昌弘）  
第9回：フィールドワークにおける倫理の実践的問題（担当：辻本昌弘）  
第10回：聞き取り調査の実践と倫理の諸問題  
第11回：著作権・商標・特許等の問題について（担当：阿部恒之）  
第12回：研究不正の防止と対応（担当：小泉政利）  
第13回：引用において気をつけるべきこと（担当：原塑）  
第14回：ピア・レビューと研究の質保証（担当：原塑）  
第15回：研究の再現性（担当：原塑）

**8. 成績評価方法：**

平常点 30%、e-ラーニングの受講 20%、レポート 50%

**9. 教科書および参考書：**

指定された教科書はありません。参考書は授業時に教えます。

**10. 授業時間外学習：**講義内容について十分、復習を行ってください。授業内容について独自に調べ、理解を深めた上で、それをレポートとしてまとめていただきます。また、公正な研究について、e-ラーニングを受講する必要があります。e-ラーニングの受講方法については、初回の授業で指示します。

**11. 実務・実践的授業/Practical business**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

**12. その他：**

科目名：西洋古典文化特論／ Western Classical Culture (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：篠澤 和久

コード：LM21201, 科目ナンバリング：LAL-OAR508J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋古典思想とパイデΙΑ

2. Course Title (授業題目) : Western Classical Thought and Paideia

3. 授業の目的と概要：本特論では、古代ギリシャ・ローマの文化（歴史・哲学・文学・言語・宗教・諸芸術など）について基本的な事柄を学び、西洋古典古代の世界に馴染むことを目的としている。本年度の講義では、5～6 世紀頃に再編再興されたいわゆる「自由 7 科」（「文法学」「修辞学」「論理学」の 3 科と「算術」「幾何学」「天文学」「音楽」の 4 科）の淵源をなすギリシャ思想を取り上げる。「パイデΙΑ」（教養教育）の観点から論理学・科学・倫理学・文芸論などの歴史的な変遷を概観しながら、ギリシャ思想の現代的な意義を再考する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : We shall learn the basics of classical Greek and Roman cultures such as history, philosophy, literature, language, religion and arts.

5. 学習の到達目標：西洋古典の思想文化に馴染み、その基本的な考え方・ものの見方について説明できるようになり、西洋思想の今後の研究に活かせるようになる。本講義で取り上げる西洋古典期の考え方やものの見方は、西洋思想に固有の文化・思想を検討するためだけではなく、他分野他領域のテーマを学ぶうえで基礎となるリベラルアーツへの導入としても有用である。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To get acquainted with Western classical thought.

To be able to explain basic facts about classical Greek thought.

To be ready to make use of your knowledge about classical Greek thought for further studies in culture at large.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は講義形式であるが、一部のテーマでは関連するテキスト（邦訳）の読解も加味して行なう。

■第 1 回 イントロダクション —— 自由七科とその淵源としてのパイデΙΑ

■第 2 回 ホメロスの世界 —— 教育（パイデΙΑ）の誕生とその系譜

■第 3 回 ソクラテス以前の哲学（1） —— 自然の発見

■第 4 回 ソクラテス以前の哲学（2） —— 論理の発見

■第 5 回 ソクラテス以前の哲学（3） —— 自然と論理との統合

■第 6 回 プラトン初期対話篇 —— ソクラテスの着想

■第 7 回 プラトン中期対話篇 —— イデア論

■第 8 回 プラトン後期対話篇

■第 9 回 アリストテレスの哲学 —— 学の分類とパイデΙΑ

■第 10 回 オルガノンとしての論理学的思考

■第 11 回 理論知としての自然学的思考

■第 12 回 実践知としての倫理学的思考

■第 13 回 制作知としての文芸論的思考

■第 14 回 西洋古典文化と近代思想 —— パイデΙΑの再興

■第 15 回 西洋古典文化と現代思想 —— パイデΙΑの近未来

8. 成績評価方法：

授業への出席状況および学期末提出の課題による総合評価

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。テーマ毎に講義資料を配付する。原典の邦訳文献や参考書については適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：講義内容に関連するテキスト（邦訳）への取り組み、および、学期末の課題提出に向けた準備

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

履修するうえで特段の予備知識は必要としない。

**科目名：人文社会科学研究 I / Advanced Study of Humanities and Social Sciences I**

**曜日・講時：**前期 金曜日 3 講時

**セメスター：**1 学期 **単位数：**2

**担当教員：**KOPYLOVA OLGA

**コード：**LM15301, **科目ナンバリング：**LAL-OAR509J, **使用言語：**日本語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

1. **授業題目：**大衆文化・アダプテーションをめぐる研究著書の解説と翻訳
2. **Course Title (授業題目)：**Readings on Popular Culture and Adaptation
3. **授業の目的と概要：**本授業では英語圏の評論家かつメディア研究者の著書を読解し、現代のポピュラー・カルチャーにおける大きな傾向（消費の特徴や生産者と消費者の関係や文化産業の有様等）について学ぶ。また、英語版と日本語版の比較を行い、翻訳の方法や（研究成果を纏める）一般向けの英文の書き方を解説する。

本授業で活用する文献：

Henry Jenkins. *Convergence Culture*. New York: NYU Press, 2006. // ヘンリー・ジェンキンズ（著）、渡部宏樹（翻訳）、北村紗衣（翻訳）、阿部康人（翻訳）『コンヴァージエンス・カルチャー：ファンとメディアがつくる参加型文化』、晶文社、2021.

Linda Hutcheon. *A Theory of Adaptation*. New York: Routledge, 2006. // リンダ ハッチオン（著）、片渕 悦久（翻訳）、鴨川 啓信（翻訳）、武田 雅史（翻訳）『アダプテーションの理論』、晃洋書房、2012.

Marc Steinberg. *Anime's Media Mix: Franchising Toys and Characters in Japan*. Minneapolis: University of Minnesota Press, 2012. // マーク・スタインバーグ（著）、大塚 英志（監修）、中川 謙（翻訳）『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』、角川学芸出版、2015.

4. **Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：**This course aims to help the students develop their language skills and acquire a better understanding of contemporary popular culture through comparative reading of English texts and their Japanese translations. The reading list consists of general audience publications by English-speaking literary and media scholars; these seminal books introduce trends in the global popular culture, including changing consumption patterns of the audiences as well as strategies and policies adopted by various media and entertainment industries. They also offer some fascinating case studies of transmedia adaptations (ubiquitous in Japan and overseas). Comparative reading will allow students to expand their vocabulary, get acquainted with common translation techniques and patterns, and get used to reading Anglophone publications. For English-speaking students, it is an opportunity to improve their skills in reading and translating Japanese texts.

Reading list:

Henry Jenkins. *Convergence Culture*. New York: NYU Press, 2006. // ヘンリー・ジェンキンズ（著）、渡部宏樹（翻訳）、北村紗衣（翻訳）、阿部康人（翻訳）『コンヴァージエンス・カルチャー：ファンとメディアがつくる参加型文化』、晶文社、2021.

Linda Hutcheon. *A Theory of Adaptation*. New York: Routledge, 2006. // リンダ ハッチオン（著）、片渕 悦久（翻訳）、鴨川 啓信（翻訳）、武田 雅史（翻訳）『アダプテーションの理論』、晃洋書房、2012.

Marc Steinberg. *Anime's Media Mix: Franchising Toys and Characters in Japan*. Minneapolis: University of Minnesota Press, 2012. // マーク・スタインバーグ（著）、大塚 英志（監修）、中川 謙（翻訳）『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』、角川学芸出版、2015.

**5. 学習の到達目標：【語学力】**

- 1) 英語能力をを向上させ、研究者による一般向け書籍を読む習慣を身につける。
- 2) 一般向けの書籍における英日翻訳の方法を覚えており、英文ライティングにおいて活用できる文法及び表現を習得している。

**【専門知識】**

- 1) 世界中の大衆文化における傾向、また消費者と生産者の関係などを理解しており、コンテンツ市場の発展を把握できる。
- 2) コンテンツ展開における「アダプテーション」の役割と可能性を理解する。
- 3) コンテンツのメディア横断的展開を背景としたポピュラー作品の制作過程を常に視野に入れており、より包括な分析を行うことができる。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)：**By the end of the course, students should be able to:

- 1) recognize major trends in transmedia content development both in Japan and globally;
- 2) explain the concept of adaptation; trace the process of adaptation from one work and/or medium to another; conduct a more comprehensive, multifaceted analysis of adapted works of fiction (tracing the production process, taking into account cultural background, the intended audience, etc.).

Students are also expected to:

- 3) develop the vocabulary and reading skills necessary to engage with specialized literature on popular culture;
- 4) acquire basic translation and paraphrasing skills;
- 5) get used to reading long texts in English (for Japanese students) and Japanese (for English-speaking students).

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. Introductory class
  2. Reading and translation (Hutcheon)
  3. Reading and translation; discussion
  4. Reading and translation (Hutcheon)
  5. Reading and translation; discussion
  6. Reading and translation (Jenkins)
  7. Reading and translation; discussion
  8. Reading and translation (Jenkins)
  9. Reading and translation; discussion
  10. Reading and translation (Steinberg)
  11. Reading and translation; discussion
  12. Reading and translation (Steinberg)
  13. Reading and translation; discussion
  14. Reading and translation
  15. Reading and translation; discussion
- (講義構成は変更することがあります)  
(the lecture content may be subject to change)

#### 8. 成績評価方法：

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席（30%）、課題（70%）

#### 9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

**10. 授業時間外学習：**The course will be conducted mostly in Japanese, however assignments will demand reading and writing in both Japanese and English. Relative proficiency in both languages is therefore necessary.

It is essential that you complete the assignment beforehand (work in class will be based on your assignments). Attending class is also strictly required.

If you have to be absent from class, you must notify the lecturer in advance.

#### 11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

#### 12. その他：

If you have any questions regarding the course, feel free to contact me via the following email:  
olga.s.kopilova@gmail.com

You can also find me in my office (827) on Mon. ~Wed. 8:30-17.30, Fri. 15:00-17.30

**科目名：人文社会科学研究Ⅱ／ Advanced Study of Humanities and Social Sciences II**

**曜日・講時：**後期 金曜日 3講時

**セメスター：**2学期 **単位数：**2

**担当教員：**KOPYLOVA OLGA

**コード：**LM25301, **科目ナンバリング：**LAL-0AR510J, **使用言語：**日本語

**【平成30年度以前入学者読替先科目名：】**

**1. 授業題目：**大衆文化とポピュラー・メディアをめぐる研究著書の解説と翻訳

**2. Course Title (授業題目)：**Readings on Popular Culture and Media

**3. 授業の目的と概要：**本授業ではオタクやポピュラー・メディアをテーマにする研究論文を読解し、オタク（ファン）の歴史や表現メディアの特徴や創造産業の有様について学ぶ。また、研究論文の日本語版と英訳版との比較を行い、翻訳の方法や研究論文の書き方を解説する。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：**This course aims to help the students develop their language skills and acquire a better understanding of contemporary popular culture through comparative reading of Japanese texts and their English translations. The reading list consists of research articles on the history of 'otaku' (fan communities) in Japan, various popular media, and creative industries. Comparative reading will allow students to expand their vocabulary, learn common translation techniques and patterns, and get used to reading Anglophone publications. For English-speaking students, it is an opportunity to improve their skills in reading and translating Japanese texts and to get acquainted with Japanese scholarship on the aforementioned topics.

**5. 学習の到達目標：【語学力】**

- ・ 英語能力をを向上させ、研究者による一般向け書籍を読む習慣を身につける。
- ・ 一般向けの書籍における英日翻訳の方法を覚えており、英文ライティングにおいて活用できる文法及び表現を習得している。

**【専門知識】**

- ・ 日本における「オタク」の系統やポピュラー・メディアの歴史的発展を追求できる。
- ・ 表現メディアの記号体系だけでなく文化的背景や産業の事情を視野に入れており、作品とその媒体を多面的に考察できる。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)：**By the end of the course, students should:

- 1) understand the genesis and early history of the contemporary Japanese 'otaku'; get acquainted with the early development of various creative industries, popular media forms, and genres.
- 2) develop a multifaceted approach to works of popular fiction that will take into account the semiotic system of the medium, its cultural background, and the current state of the industry.

Students are also expected to:

- 3) develop the vocabulary and reading skills necessary to engage with specialized literature on popular culture;
- 4) acquire basic translation and paraphrasing skills;
- 5) get used to reading long texts in English (for Japanese students) and Japanese (for English-speaking students).

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. Introductory class
2. Reading, translation, discussion (otaku)
3. Reading and translation (otaku)
4. Reading and translation (otaku)
5. Reading and translation (television)
6. Reading and translation (manga)
7. Reading and translation (manga)
8. Reading, translation, discussion (bookstores)
9. Reading, translation, discussion (bookstores)
10. Reading and translation (anime)
11. Reading and translation (characters)
12. Reading and translation (fictional worlds)
13. Reading and translation (media mix)
14. Reading and translation (2.5D musicals)
15. Reading and translation

(講義構成は変更することがあります)

(the lecture content may be subject to change)

**8. 成績評価方法：**

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席（30%）、課題（70%）

**9. 教科書および参考書：**

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

**1 0. 授業時間外学習 :** The course will be conducted mostly in Japanese, however assignments will demand reading and writing in both Japanese and English. Relative proficiency in both languages is therefore necessary. It is essential that you complete the assignment beforehand (work in class will be based on your assignments). Attending class is also strictly required.

If you have to be absent from class, you must notify the lecturer in advance.

**1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**1 2. その他 :**

If you have any questions regarding the course, feel free to contact me via the following email:

olga.s.kopilova@gmail.com

You can also find me in my office (827) on Mon. ~Wed. 8:30-17.30, Fri. 15:00-17.30

科目名：英語発表技能演習／ Academic Presentation (Practicum)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE

コード：LM22401, 科目ナンバリング：LAL-0AR511E, 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語の学術発表
2. Course Title (授業題目)：Academic Presentation in English
3. 授業の目的と概要：授業では、英語の学術の環境の中で研究を報告の仕方を学ぶ。また、全面的に英語の学会やシンポジウムに参加する方法を学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This class offers practical instruction on presenting research in an English-language academic setting. It also provides instruction on various aspects of participation in English-language academic conferences and symposia.
5. 学習の到達目標：英語の学会やシンポジウムに参加し報告することが出来るための必要の技術を学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The primary goal of the class is for students to gain the skills necessary to present at and participate in English-language academic conferences and symposia.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
  1. 序論:英語の学会
  2. 発表・報告の基本
  3. ディスカッションと質問
  4. 学生発表と フィードバック
  5. 学生発表と フィードバック
  6. 学生発表と フィードバック
  7. 学生発表と フィードバック
  8. 学生発表と フィードバック
  9. 学生発表と フィードバック
  10. 学生発表と フィードバック
  11. 学生発表と フィードバック
  12. 学生発表と フィードバック
  13. 学生発表と フィードバック
  14. 学生発表と フィードバック
  15. 学生発表と フィードバック
8. 成績評価方法：

Presentation [60%], Discussion participation [40%]
9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。

Necessary readings will be distributed.
10. 授業時間外学習：1 回研究発表  
12 回ディスカッション  
1 presentation  
Discussion participation (each class)
11. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

This class is taught in English.



**科目名：英語研究論文作成法Ⅰ／ Advanced English for Academic writing I**

**曜日・講時：**前期 水曜日 4 講時

**セメスター：**1 学期 **単位数：**2

**担当教員：**PHILLIPS MAX

**コード：**LM13403, **科目ナンバリング：**LAL-0AR512E, **使用言語：**英語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

1. **授業題目：**Advanced Academic Writing I
2. **Course Title (授業題目)：**Advanced Academic Writing I
3. **授業の目的と概要：**対面授業のみ

Generally, there are 2 strategies for teaching academic writing: 1) Assume the students know very little about academic writing thus teach all the basics systematically; upon course completion, students are prepared to write (at their English ability) anything. 2) Teach, through revision of previous written materials.

I teach the first strategy. I assume you can write, but that you don't really understand the conventions of academic writing nor how to organize in a manner similar to the way native speakers would.

With that in mind, this course is an introduction to the basic skills needed to produce academic-type writing. Students will learn how to logically arrange their thoughts into coherent essays. As part of the course, students will learn: a) how to write effective thesis statements, b) strategies for pre-writing, writing, organization, revising and proofreading, c) various word-, sentence-, and paragraph- level strategies for improving the quality of their writing, and d) how to focus and develop ideas, among other skills.

Since the situation with the corona virus remains uncertain - I will be developing 2 streams for the course (1 for in-classroom and 1 for distance education). They share the same content, but the method of teaching it will be different, obviously. If we are in the classroom, it will be taught as a mix of lecture, worksheets, workshops, etc.. If the class are via distance education there will be mix of live classes, pre-recorded lectures, and workshops.

You can expect to submit some written homework every week, except the first week and workshop days.

NOTE: as a registered student, you will have access to me at anytime via email.

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：**Generally, there are 2 strategies for teaching academic writing: 1) Assume the students know very little about academic writing thus teach all the basics systematically; upon course completion, students are prepared to write (at their English ability) anything. 2) Teach, through revision of previous written materials.

I teach the first strategy. I assume you can write, but that you don't really understand the conventions of academic writing nor how to organize in a manner similar to the way native speakers would.

With that in mind, this course is an introduction to the basic skills needed to produce academic-type writing. Students will learn how to logically arrange their thoughts into coherent essays. As part of the course, students will learn: a) how to write effective thesis statements, b) strategies for pre-writing, writing, organization, revising and proofreading, c) various word-, sentence-, and paragraph- level strategies for improving the quality of their writing, and d) how to focus and develop ideas, among other skills.

Since the situation with the corona virus remains uncertain - I will be developing 2 streams for the course (1 for in-classroom and 1 for distance education). They share the same content, but the method of teaching it will be different, obviously. If we are in the classroom, it will be taught as a mix of lecture, worksheets, workshops, etc.. If the class are via distance education there will be mix of live classes, pre-recorded lectures, and workshops.

You can expect to submit some written homework every week, except the first week and workshop days.

NOTE: as a registered student, you will have access to me at anytime via email.

**5. 学習の到達目標：**Students will learn how to organize their English writing to an appropriate level, through a systematic, step-by-step approach.

**6. Learning Goals(学修の到達目標)：**Students will learn how to organize their English writing to an appropriate level, through a systematic, step-by-step approach.

## 7. 授業の内容・方法と進捗予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

このクラスコードは zamuy6y です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

- 1) Course Introduction; Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules
- 2) Essay 1 Assignment; Introduction to English Writing; Pre-writing Strategies
- 3) Basic Sentence Structure; Parallelism Rules
- 4) Writing an Outline; Basic Paragraph Structure
- 5) Basic Essay Structure
- 6) Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading
- 7) Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1); Essay 2 Assignment
- 8) Introduction and Conclusion Writing; Essay 3 Assignment
- 9) Understanding Logic, Audience, Tone; Organization 1 - Compare/Contrast
- 10) Organization 2 - Chronological Order
- 11) Organization 3 - Cause/Effect
- 12) Workshop 2 (E2 one-on-one)
- 13) Effective Thesis Statement Writing; Gender Neutral Language
- 14) Workshop 3
- 15) Semester Exam

## 8. 成績評価方法：

Final grade to be determined by: homework, submitted essays, and workshop participation.

## 9. 教科書および参考書：

Course Syllabus based on "Discoveries in Academic Writing," by Barbara Harris Leonhard and "Teaching Academic Writing" by Eli Hinkel.

**10. 授業時間外学習：**Attendance is mandatory. Students who accrue more than 2 unexcused absences will be expelled from the course. No auditors are permitted.

## 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

## 12. その他：

**科目名：英語研究論文作成法Ⅱ／ Advanced English for Academic writing II**

**曜日・講時：**後期 水曜日 4 講時

**セメスター：**2 学期 **単位数：**2

**担当教員：**PHILLIPS MAX

**コード：**LM23403, **科目ナンバリング：**LAL-0AR513E, **使用言語：**英語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

**1. 授業題目：**Advanced Academic Writing II

**2. Course Title (授業題目)：**Advanced Academic Writing II

**3. 授業の目的と概要：**Prerequisite: Successful completion of AAWI. In addition to research writing, AAWII seeks to develop students' ability to adapt to a broader range of writing situations, while writing at a deeper level. AAWII encourages the development of an individual 'voice'. For example, where in AAWI a student might have developed the ability to write an essay clearly and persuasively for an educated general audience, AAW II seeks to move beyond that to developing a unique perspective and voice appropriate to higher level academic writing.

As a study-abroad, international, or exchange student, you may challenge the prerequisite. Please send email for details on how to challenge the requirement.

This writing course is designed as 2-part course. See Advanced Academic Writing I for more information.

**4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：**Prerequisite: Successful completion of AAWI. In addition to research writing, AAWII seeks to develop students' ability to adapt to a broader range of writing situations, while writing at a deeper level. AAWII encourages the development of an individual 'voice'. For example, where in AAWI a student might have developed the ability to write an essay clearly and persuasively for an educated general audience, AAW II seeks to move beyond that to developing a unique perspective and voice appropriate to higher level academic writing.

As a study-abroad, international, or exchange student, you may challenge the prerequisite. Please send email for details on how to challenge the requirement.

This writing course is designed as 2-part course. See Advanced Academic Writing I for more information.

**5. 学習の到達目標：**Students will learn how to organize and write a multi-page research paper, which necessarily includes citations to other people's work.

**6. Learning Goals (学修の到達目標)：**Students will learn how to organize and write a multi-page research paper, which necessarily includes citations to other people's work.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

The lectures are through online classes (on-demand and live classes via Meet).

- 1) Course Introduction; The Research Process
- 2) Choosing a Topic; Identifying Potential Resources
- 3) Gathering Source Material - Evaluating Sources
- 4) Note-Taking
- 5) Using the Internet for Research
- 6) Considering Organization
- 7) How to Organize Notes / Write Outline
- 8) Workshop 1 (Outline - rough draft)
- 9) Integrating Source Material; First Draft Writing
- 10) Understanding Citations; Documenting Sources In-text
- 11) Paper Format; Documenting Sources Post-text
- 12) Workshop 2 (rough draft of main body)
- 13) Writing Introduction and Conclusion for Research Papers
- 14) Writing Workshop 3 (rough draft of paper)
- 15) Abstract Writing"

**8. 成績評価方法：**

Final grade will be determined by: homework, research paper, and workshop participation.

**9. 教科書および参考書：**

Course Syllabus based in part on: MLA Style Manual and Guide to Scholarly Publishing, 3rd Ed.

**10. 授業時間外学習：**Attendance is mandatory. Students who accrue more than 2 unexcused absences will be expelled from the course. Absolutely no auditors.

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

科目名：日本語研究論文作成法Ⅰ／ Advanced Japanese for Academic writingⅠ

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LM12202, 科目ナンバリング：LAL-0AR514J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アカデミックライティングの基礎

2. Course Title (授業題目)：Academic WritingⅠ

3. 授業の目的と概要：この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を正確に、わかりやすく書けるようになることです。そのために、日本語で文章を書くときに必要な基礎的な知識、文法、表現などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The aim of this course is to help students acquire basic academic writing skills in Japanese. This course also furthers the development of a student's skills in writing reports and research papers properly. In addition, students have opportunities to practice peer review and improve their reports.

5. 学習の到達目標： 1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身に着ける

2 読み手にわかりやすく書く力をつける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to:

1. develop the writing skills and learn useful expressions.

2. learn proper sentence construction.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では、classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは、qvh4n6g です。

classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. オリエンテーション

2. 自己紹介文を書く

3. 自分の研究を紹介する

4. 書き言葉のルール

5. 過程を説明する

6. 定義を説明する①

7. 定義を説明する②

8. 分類・例示を説明する①

9. 分類・例示を説明する②

10. 比較・対照を説明する①

11. 比較・対照を説明する②

12. 原因・結果を説明する①

13. 原因・結果を説明する②

14. 全体のまとめ①

15. 全体のまとめ②

8. 成績評価方法：

宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%

以上の割合で、総合的に判定する

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。

参考書は『Good Writing へのパスポート』（くろしお出版）、『レポート・論文を書くための日本語文法』（くろしお出版）など

10. 授業時間外学習：ほぼ毎回、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語研究論文作成法Ⅱ／ Advanced Japanese for Academic writing II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LM22201, 科目ナンバリング：LAL-0AR515J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アカデミックライティングの書き方

2. Course Title (授業題目)：Academic writing II

3. 授業の目的と概要：この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を作成する手順にそって、レポートを完成させるまでのプロセスを学ぶことです。そのために、テーマの調べ方や資料の調べ方、文章の構成の仕方、引用の方法などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students learn and experience the process of writing a report in Japanese. This course also furthers the development of a student's research skills. Specifically, in developing a research topic and thesis, reviewing relevant literature, and learning writing structure and citation methods. In addition, students have opportunities to practice peer review and improve their reports.

5. 学習の到達目標： 1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身に着ける

2 読み手にわかりやすく書く力をつける

3 レポートや論文を作成する方法を身に着ける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to

1. develop the writing skills and learn useful expressions.

2. learn proper sentence construction.

3. learn the skills necessary for writing a report or a research paper

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：オンライン）

1. オリエンテーション

2. テーマを見つけよう・調べよう

3. 資料の探し方を知ろう

4. 資料を整理しよう・話し合おう

5. 資料を読んで整理しよう

6. テーマの絞り込みと定義の重要性を学ぼう

7. 定義の書き方を考えよう

8. 筆者の意図と構成を考えよう

9. タイトル・アウトラインを作成しよう

10. 引用方法や参考文献の書き方を学ぼう

11. レポートを書くときの表現を学ぼう

12. レポートを作成する前に確認しよう

13. ともだちのレポートを読んでフィードバックをしよう

14. フィードバックを読んで、よりよい文章に直そう

15. 自分のレポートを読んで、自分の成長をまとめよう

8. 成績評価方法：

宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%

以上の割合で、総合的に判定する

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。参考書は『あしか：アイデアをもって社会について考える（レポート・論文編）』（ココ出版）、『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』（ひつじ書房）

など

10. 授業時間外学習：ほぼ毎回、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語理解表現スキルⅠ／

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM12501, 科目ナンバリング：LAL-0AR516J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：読解力と口頭表現能力の改善

2. Course Title (授業題目) : improving of reading and speaking skills

3. 授業の目的と概要：読解活動は、読んだことから内容を再構築する過程です。そこでこの授業の目的は、あるまとまった文章を読んで理解したことを相手に話すことによって、読む力と話す力を伸ばします。そのため、授業では、ペアになって、読んだ内容を相手に伝えるという目的で読み、相手に話す活動を繰り返し行います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Reading comprehension can be defined as the process of reconstructing a story from reading material. The aim of this course is to improve students' reading and speaking skills in Japanese by post-reading retelling activity in pairs. Students have opportunities to retell the story to each other in each pair of learners.

5. 学習の到達目標： 1 数文レベルから 600 字程度までのまとまった文章を読んで理解できる

2 理解した内容を相手に適切に伝えることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The goals of this course are to:

1. comprehend a decent amount of sentences which is less than 600 characters.

2. inform what you understand to someone adequately.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では、classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは、 です。

classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. オリエンテーション

2. 再話活動(1)

3. 再話活動(2)

4. 再話活動(3)

5. 再話活動(4)

6. 再話活動(5)

7. 再話活動(6)

8. 中間テスト

9. 再話活動(7)

10. 再話活動(8)

11. 再話活動(9)

12. 再話活動(10)

13. 再話活動(11)

14. 再話活動(12)

15. 期末テスト

8. 成績評価方法：

課題 25%、クイズ 25%、中間テスト 25%、期末テスト 25%

以上の割合で、総合的に判定する

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。

参考書は『初中級からの読解』（凡人社）、『新わくわく文法リスニング 100』（凡人社）など

10. 授業時間外学習：毎回、課題とクイズがあります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語理解表現スキルⅡ／

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM22501, 科目ナンバリング：LAL-0AR517J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：読解力と口頭表現能力の改善

2. Course Title (授業題目) : improving of reading and speaking skills

3. 授業の目的と概要：読解活動は、読んだことから内容を再構築する過程です。そこでこの授業の目的は、あるまとまった文章を読んで理解したことを相手に話すことによって、読む力と話す力を伸ばします。そのため、授業では、ペアになって、読んだ内容を相手に伝えるという目的で読み、相手に話す活動を繰り返し行います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Reading comprehension can be defined as the process of reconstructing a story from reading material. The aim of this course is to improve students' reading and speaking skills in Japanese by post-reading retelling activity in pairs. Students have opportunities to retell the story to each other in each pair of learners.

5. 学習の到達目標： 1 数文レベルから 600 字程度までのまとまった文章を読んで理解できる

2 理解した内容を相手に適切に伝えることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The goals of this course are to:

1. comprehend a decent amount of sentences which is less than 600 characters.

2. inform what you understand to someone adequately.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では、classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは、 です。

classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. オリエンテーション

2. 再話活動(1)

3. 再話活動(2)

4. 再話活動(3)

5. 再話活動(4)

6. 再話活動(5)

7. 再話活動(6)

8. 中間テスト

9. 再話活動(7)

10. 再話活動(8)

11. 再話活動(9)

12. 再話活動(10)

13. 再話活動(11)

14. 再話活動(12)

15. 期末テスト

8. 成績評価方法：

課題 25%、クイズ 25%、中間テスト 25%、期末テスト 25%

以上の割合で、総合的に判定する

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。

参考書は『初中級からの読解』（凡人社）、『新わくわく文法リスニング 100』（凡人社）など

10. 授業時間外学習：毎回、課題とクイズがあります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。



科目名：日本語・日本文化論特論Ⅰ／Studies of Japanese Culture(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LM14401, 科目ナンバリング：LAL-0AR518J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本文化論：大衆文化とファンダムⅠ

2. Course Title (授業題目)：Studies of Japanese Popular CultureⅠ

3. 授業の目的と概要：本授業は江戸時代初期から 2000 年代までの期間に焦点を絞り、日本のポピュラー・カルチャーの進展を辿っている。日本における創造生産の特徴、人気のあるコンテンツの種類及び典型的な消費パターンを紹介し、それを形成した要素を学生に考察させる。それによって日本のポピュラー・カルチャーの概要だけでなく、大衆文化の根本的な原理の理解が成立することが期待される。さらに、皆さんが講義と課題によって日本のポピュラー・カルチャーをめぐる研究と接触し、これから自分の研究において活用できる観点や考え方を見つけたらありがたいと思う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course focuses on the history of popular culture in modern and contemporary Japan (from Edo to the early 2000s): its main media forms, genres, and practices. It aims to describe multiple phenomena that have shaped cultural production and consumption patterns in Japan, as well as various media and artifacts that are now known worldwide. Beyond the main topic of the course, described above, students will get a better grasp of popular culture in general and understand the main principles of its development. The assignments introducing various samples of academic writing on the Japanese popular culture will allow students to discover new lines of inquiry potentially applicable in their postgraduate research.

5. 学習の到達目標：——江戸時代初期から 2000 年代にかけての日本の大衆文化の全貌を把握する。

——各々のメディア、ジャンル、また創造産業の登場と展開を裏付ける歴史的状況、技術、そして社会の相互作用を理解する。

——日本におけるメディアや消費活動などの特徴についての知識を活用し、世界中の大衆文化における傾向、また消費者と生産者の関係などを分析できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to:

1) Describe the overall history of popular culture in Japan from the Edo period to the early 2000s.

2) Explain how historical circumstances, technological developments, and social changes came together to give life to new forms of entertainment media, genres, professions, and creative industries.

2) Recognize specific features of Japanese media and consumer behavior, but also find analogs and parallels in other countries where possible; use this understanding of the specific and the common to discern world-wide trends in popular culture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

The course will be conducted in English, however supplementary reading may include materials in Japanese.

1. Proto-popular culture in Edo period I: Life and entertainment in cities and in the countryside
2. Proto-popular culture in Edo period II: Life and entertainment in cities and in the countryside
3. Proto-popular culture in Edo period II: Play and liminal spaces, traveling
4. Proto-popular culture in Edo period IV: Yōkai and hayarigami
5. Yōkai in the 20th century: from documented folklore to urban legends
6. The Taishō period I: Urbanization, westernization, new media
7. The Taishō period II: Urbanization, westernization, new media
8. WWII aftermath: Japan during and after the occupation
9. The tumultuous 60s and the new forms of entertainment
10. The affluent 70s: The arrival of kawaii culture
11. Many faces of 'kyara': yurukyara
12. A brief history of Japanese TV
13. Idols, celebrities, and promotional agencies I: Tarento
14. Idols, celebrities, and promotional agencies II: Idols
15. Mass media and scandal in Japan

(講義構成は変更することがあります)

(the lecture content may be subject to change)

8. 成績評価方法：

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席（20%）、課題（70%）、および授業への貢献を加味する（10%）

出席=1、遠隔での参加（特別の理由がない限り）=0.5

9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

10. 授業時間外学習：Students are required to read the materials provided to them by the lecturer and complete

corresponding assignments before class.

Students are also encouraged to actively draw examples and cases from their own experience of popular culture in Japan and overseas.

**1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**1 2. その他：**

If you have to be absent from class, you must notify the lecturer in advance.

If you have any questions regarding the course, feel free to contact me via the following email:

olga.s.kopilova@gmail.com

You can also find me in my office (827) on Mon. ~Wed

**科目名：日本語・日本文化論特論Ⅱ／ Studies of Japanese Culture(Advanced Lecture) II**

**曜日・講時：**後期 木曜日 4 講時

**セメスター：**2 学期 **単位数：**2

**担当教員：**KOPYLOVA OLGA

**コード：**LM24401, **科目ナンバリング：**LAL-0AR519J, **使用言語：**日本語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

**1. 授業題目：**日本文化論：大衆文化とファンダム II

**2. Course Title (授業題目)：**Studies of Japanese Popular Culture II

**3. 授業の目的と概要：**本授業は「日本文化論特論Ⅰ」をもとに、日本におけるポピュラー・カルチャーとファン・カルチャー（オタク文化）の相互関係を説明する。具体的に言えば、オタクの根本的な価値観、興味及び指向、そしてそれに応じたコンテンツの分類を解説した上で、創造産業と消費者の相互影響を明らかにする。各々の創造産業の事情と戦略、コンテンツと物語内容の関係性、表現メディアの特徴、ファン活動と消費パターンといった幅広いテーマが取り上げられ、受講者が様々なメディアやそれに関連するサブカルチャーの特徴について知ることができる。皆さんがこの授業によって自分の研究において活用できる観点や考え方を見つけたらありがたいと思う。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：**As a direct continuation of 日本文化論特論Ⅰ (taking the first course is not a strict requirement ), this course demonstrates how popular culture in Japan mixes with a more niche fan (otaku) culture and vice versa.

It describes typical fan practices and values and proceeds to demonstrate how creative industries (for instance, TV producers, publishers, or game developers) interact with consumers (especially fans) and how different types of IP are disseminated and used. Through this course, students will gain an opportunity to consider multiple phenomena that distinguish cultural production in Japan, from economic conditions that influence creative industries, to consumption patterns and fan activities, to storytelling techniques, to the specificity of various media. Students will develop a more nuanced understanding of various entertainment media and their most dedicated consumers, on the one hand, and be able to discover new lines of inquiry potentially applicable in their postgraduate research, on the other hand.

**5. 学習の到達目標：**——オタク市場に関わる主な表現メディアの歴史を把握し、メディアの生産、流布と消費の特徴、あるいはメディアの相互関係についての知識を有する。

——日本のオタク文化及びファンの消費行動の特徴、それに関連する主な概念を知り、他の国におけるファン・カルチャーとの共通点あるいは類似点を見いだせる。

——日本のポピュラー作品を多面的かつ包括的に解説し、様々な観点から評価できる。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)：**By the end of the course, students should be able to:

1) Describe major media associated with Japanese otaku market, their history, specifics of their production, distribution and consumption, as well as their relations with other media.

2) Recognize key concepts of the otaku culture and general trends in fan consumption in Japan; but also find analogues and parallels in other countries where possible; use this understanding of the specific and the common to discern world-wide trends in popular culture.

3) Consume and evaluate works of Japanese popular culture from multiple standpoints, addressing both form and content and taking into account factors that might have shaped the former and the latter.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

The course will be conducted in English, however supplementary reading and assignments will include materials in Japanese.

1. The many faces of otaku I: What is 'otaku' ?
2. The many faces of otaku II: A history of fan practices in Japan
3. Different types of fan engagement and fan creativity
4. What is media mix? Creative industries and transmedia franchises
5. Various media of otaku market I: anime industry
6. Various media of otaku market II: how anime is made
7. Various media of otaku market III : how manga is made
8. Various media of otaku market IV: manga industry in the 21 century
9. 2.5-jigen practices III: voice acting in the Japanese popular media (history)
10. 2.5-jigen practices IV: voice acting in the Japanese popular media today
11. 2.5-jigen practices IV: 2.5 stage plays/musicals
12. 2.5-jigen practices I: anime tourism (contents tourism)
13. 2.5-jigen practices II: cosplay
14. Idols, celebrities, and promotional agencies I: tarento
15. Idols, celebrities, and promotional agencies II: idols

(講義構成は変更することがあります)

(the lecture content may be subject to change)

**8. 成績評価方法：**

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席（20%）、課題（70%）、および授業への貢献を加味する（10%）

出席=1、遠隔での参加（特別の理由がない限り）=0.5

**9. 教科書および参考書：**

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

**10. 授業時間外学習：**Students are required to read the materials provided to them by the lecturer and complete corresponding assignments before class.

Students are also encouraged to actively draw examples and cases from their own experience of popular culture in Japan and overseas.

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**12. その他：**

If you have to be absent from class, you must notify the lecturer in advance.

If you have any questions regarding the course, feel free to contact me via the following email:

olga.s.kopilova@gmail.com

You can also find me in my office (827) on Mon. ~Wed

科目名：人文統計基礎演習／ Statistics for Humanities (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：木村 邦博

コード：LM11201, 科目ナンバリング：LAL-0AR520J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人文社会科学研究と社会貢献のための統計学入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Statistics for Humanities and Social Sciences
3. 授業の目的と概要：人間および社会に対する理解を深め研究・社会貢献を行うための統計学的素養を身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this seminar is to help students to learn elementary statistical methods for understanding human beings and their societies.
5. 学習の到達目標：学術論文やメディア報道などにおける「統計の誤用」の事例を検討することを通して、データ収集法・統計分析手法の基本的な考え方を学ぶ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn the methods of data collection and statistical analysis by examining the examples of the misuse of statistics in academic writings and journalism.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。  
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。
  1. 授業計画の説明：人間社会と統計
  2. 事例、定義、計測
  3. 情報収集法、選択的注意、権威、測定法
  4. 代表値、比率・率、相関・関連
  5. グラフ、データビジュアライゼーション
  6. 推定値、変化の要因、トレンド予測
  7. リスク計算、コーホートなど
  8. 情報源の権威、関心の影響など
  9. 測定・集計手続きによるバイアス、利害衝突の影響など
  10. 無作為抽出、統計的検定
  11. 実験における攪乱要因の統制とその限界
  12. 調査データによる統計的因果推論の方法
  13. 文章データの統計解析
  14. 新しい時代の統計学(1)：ベイズ統計
  15. 新しい時代の統計学(2)：ビッグデータ
8. 成績評価方法：  
期末レポート (Google Classroom で提出) [50%]、平常点 (授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程) [50%]
9. 教科書および参考書：  
教科書：ジョエル・ベスト『統計という名のウソ』白揚社、および Google Classroom で配付する文献  
参考書：佐伯胖・松原望『実践としての統計学』東京大学出版会、ほか (授業で指示する)
10. 授業時間外学習：(1) 演習の時間に取り上げる章や文献を事前に読んで検討しておく。  
(2) 担当の章・文献に関する報告の準備 (事例の収集を含む) をする。  
(3) 関連文献を検索して読み、あわせて検討する。
11. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：  
受講希望者は初回の授業までに必ず Google Classroom 上で授業計画・実施方法等を確認し、初回の授業に必ず参加すること。

**科目名：キャリア設計演習／ Carrier Design Seminar**

**曜日・講時：**後期 木曜日 3講時

**セメスター：**2学期 **単位数：**2

**担当教員：**猪股 歳之

**コード：**LM24302, **科目ナンバリング：**LAL-0AR521J, **使用言語：**日本語

**【平成30年度以前入学者読替先科目名：】**

**1. 授業題目：**キャリア・イメージを作る

**2. Course Title (授業題目) :** For making a concept of your own profession

**3. 授業の目的と概要：** この授業では、大学院文学研究科の学生が、日本の経済構造や労働法制といった基本事項について理解を深めるとともに、実際の「働く」現場のあり様について具体的なイメージを持ち、自らの将来のキャリアを主体的にプランニングしていけるよう、キャリア支援センターと共同して実践的な教育指導を行います。取得単位はスキル科目として修了単位にカウントされます（学生便覧で確認のこと）。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) :** In this class, students of the Faculty of Arts and Letters will deepen their understanding of basic matters such as Japan's economic structure and labor legislation, have a concrete image of the actual "working" field, and take the initiative in their future careers. We will provide practical educational guidance in collaboration with the Center for Career Support so that you can plan. Credits earned will be counted as graduation credits as a skill-specialized education subject (check the Student Handbook).

**5. 学習の到達目標：** 職業生活についての具体的なイメージを得て、自らのキャリアについて主体的に構想していけるようになる。

**6. Learning Goals(学修の到達目標) :** Students will be able to get a concrete image of their own work-life and think independently about their careers.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. オリエンテーション
2. 日本経済の基本構造について(1)
3. 日本経済の基本構造について(2)
4. ビジネス全般について(1)
5. ビジネス全般について(2)
6. ビジネス全般について(3)
7. 公務員
8. 労働法
9. 二十歳のハローワーク（様々な職種で活躍する先輩等による就職講演会）
10. インターンシップ・業界研究セミナー
11. 公務員等業務説明会
12. OBOGによる業界・仕事研究セミナー
13. 自己分析と就職活動(1)
14. 自己分析と就職活動(2)
15. まとめ

**8. 成績評価方法：**

授業と指定されたセミナー等への出席およびその報告の提出（100%）。

**9. 教科書および参考書：**

特になし。必要な資料は授業時に配付する。

Necessary materials will be distributed during class.

**10. 授業時間外学習：** 授業中に指示された課題の準備。日常的に、新聞・ネット等を通じて経済情報に目配りすること。

Prepare for assignments given in class. Keep an eye on economic information through newspapers, news, the Internet,

etc. on a daily basis.

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業／Practical business

**科目名：科学技術社会論実践演習／**

**曜日・講時：**前期集中 その他 連講

**セメスター：**1 学期集中 **単位数：**2

**担当教員：**直江 清隆

**コード：**LM98803, **科目ナンバリング：**LAL-0AR522J, **使用言語：**日本語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

1. **授業題目：**デジタル×サステナブル社会をデザインする
2. **Course Title (授業題目)：**Designing digital × sustainable society
3. **授業の目的と概要：**情報技術の急速な発展により社会や個々の人間の関わりや企業や研究者の担う責任にも 大きな変化が生じてくることが予想されている。  
この授業では、理系、文系、企業といった多様な側面から情報技術と持続可能性の関わりについて検討する。その目的はいかにして情報技術が持続可能な社会に貢献し、人間の wellbeing (幸福、よい状態) を創り出すことができるかをともに議論していくことを目的とする。  
この授業では、多様な参加者によるワークショップを通じて、これからの技術や社会を適切に予想、評価しながら、情報技術と持続可能な社会を協調的に発展させていくシナリオをデザインする体験をすることになる。
4. **Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：**The rapid development of information technology is expected to bring about major changes in the relationship between society and individual human beings, as well as in the responsibilities of companies and researchers.  
In this course, we will examine the relationship between information technology and sustainability from various perspectives, including science, humanities, and business. The objective is to discuss together how information technology can contribute to a sustainable society and create human wellbeing.  
In this class, through workshops with diverse participants, students will experience designing scenarios to develop information technology and sustainable society in a coordinated manner, while appropriately anticipating and evaluating future technology and society.
5. **学習の到達目標：**1) 技術に関する倫理的、社会的な問題について、多様な側面からのアプローチを通して解決の方向や手法を学ぶ。 また、2) 異なる立場、専門分野の人々の発想を理解し、コミュニケーションを取れる能力を身につける。
6. **Learning Goals (学修の到達目標)：**Students learn about 1) directions and methods for solving social issues using various approaches (technical, ethical, economical and so on), and 2) develop the ability to understand and communicate with people in different positions and specialties.
7. **授業の内容・方法と進度予定：**  
この授業は、多様な参加者によるワークショップとその準備のためのレクチャーによって構成される。集中講義の形でレクチャー7月末(7/27 オープンキャンパスの2日目)および9月上旬2日間(9/14-15) および振り返り(半日)を予定している。  
ワークショップの参加者には、企業(東京エレクトロン)の技術者、理工系の大学院生、文科系等の大学院生を予定している。普段ふれあうことのない人びととのコミュニケーションを通じて、異なる立場の参加者が統一的なテーマについて自由に意見を交わし、共通の議論を創りあげていくことが目標となる。また、ワークショップの議論の後、議論を深化させる機会を設ける。  
5月に本年度の授業の内容についての説明をするので、Classroomなどで確認して欲しい。以下は暫定案である。  
レクチャー及びワークショップは対面で行う予定である。  
  
スケジュール：  
事前レクチャー (7/21)  
「デジタルとサステナブルに関する基本的な知識の講義を行い、それに続く議論では、現状の課題と、その課題の歴史的・社会的背景について理解を深める。」  
  
ワークショップ(9/14-15)  
1日目 10:00~17:00「フューチャーデザインを参考に、事前講義を踏まえ、現在から過去へのメッセージを作成する。その後、未来を想像した上で、未来から現在へのメッセージを作成し、共有する。」  
2日目 10:00~17:00 重要な未来からのメッセージを選び、つくりたい未来とそこに至るためのシナリオをデザインする。他班との相互作用も含めて、自分たちのシナリオを洗練させていく。  
  
振り返り(半日)  
10:30~12:00：振り返り議論(サステナブル×デジタルな社会において、どんな人材が必要になるか。自分はどの活躍したいか)  
  
授業は、直江清隆(文学研究科)/高浦康有(経済学研究科)/松八重一代(環境科学研究科)/福島康裕(環境科学研究科)/山内保典(高度教養教育・学生支援機構)および外部講師(山口光之(東京エレクトロン)、森嶋雅人(東京エレクトロン)ほか)により行われる。
8. **成績評価方法：**  
発表・授業への取り組みや小レポートを総合的に評価する。
9. **教科書および参考書：**



特になし/No textbooks will be used.

**10. 授業時間外学習：**website や書籍を通して、授業内容に関する情報や話題を収集すること。/Students are required to collect information

and topics related to the content of the class using websits and books.

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**12. その他：**

ワークショップには定員を設ける。この際、理工系の大学院生と文科系等の大学院生(及び学部生)のバランスも考慮する。

本実習の フォローアップ企画として「未来社会デザイン塾」を開設し、希望者を塾生として雇用する。この塾への参加により、ポスター発表や市民カフェなどの活動を通じてワークショップやレクチャーの成果を発展させることができる。

科目名：アーカイブズ学研究演習／

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：加藤 諭

コード：LM14202, 科目ナンバリング：LAL-0AR523J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アーカイブズ学研究法

2. Course Title (授業題目) : Research Methods in Archival Science

3. 授業の目的と概要：本講義は、実際にアーカイブズ機関において必要とされるアーキビストの業務について、ディスカッションや実践を通じて体得する授業である。アーカイブズ機関の現場で求められるアーキビストの使命・倫理、資料保存に関する技術、公文書の保存・修復・利用に関する知識、専門的な知識やマネジメント、職務上必要なスキルやマネジメント能力について、理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This lecture is a class in which students learn about the work of archivists actually required in archives through discussion and practice. Students will deepen their understanding of the mission and ethics of archivists required in the field of archives, techniques related to document preservation, knowledge of preservation, restoration, and utilization of official documents, expertise and management, and skills and management abilities necessary for their work.

5. 学習の到達目標：本講義は、現場のアーキビストとのディスカッションや、マネジメントに関する演習等をおこない、アーカイブズ機関において必要とされるアーキビストの知識・技能を体得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : In this lecture, students will have discussions with archivists in the field and practice management to acquire the knowledge and skills required of archivists in archival institutions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. アーキビストの使命と役割
3. 国立大学法人における文書管理と連携
4. 大学アーカイブズにおける保存・修復・利用
5. 大学アーカイブズにおける MLA 連携とアウトリーチ活動
6. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践①
7. 自治体アーカイブズにおける業務と実践①
8. 自治体アーカイブズにおける業務と実践②
9. 民間アーカイブズにおける業務と実践
10. 自治体アーカイブズにおける業務と実践③
11. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践②
12. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践③
13. 東北大学史料館における記録資料の整理公開①
14. 東北大学史料館における記録資料の整理公開②
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席[20%]・受講態度[40%]・レポート[40%]

9. 教科書および参考書：

エリザベス・シェパード、ジェフリー・ヨー（共著）、森本祥子、平野泉、松崎裕子（編・訳）『レコード・マネジメント・ハンドブック：記録管理・アーカイブズ管理のための』日外アソシエーツ、2016 年、スー・マケミッシュ、マイケル・ピゴット、バーバラ・リード、フランク・アップウオード（共編）、安藤正人、石原一則、坂口貴弘、塚田治郎、保坂裕興（訳）『アーカイブズ論：記録のちからと現代社会』明石書店、2019 年

10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：デジタルアーカイブ特論／

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：田村 光平

コード：LM24303, 科目ナンバリング：LAL-0AR524J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：デジタルアーカイブの基礎と活用

2. Course Title (授業題目) : Basics and Applications of Digital Archives

3. 授業の目的と概要：情報技術は、記録の保全・継承・活用等に関する諸課題の解決に大きく貢献することが期待されている。前半は、デジタルアーカイブの基礎的な紹介をするとともに、なぜ今デジタル・アーカイブが注目されているのか、さまざまな社会的課題と関連づけて紹介する。後半は、デジタルアーカイブに関する技術の基礎を紹介し、デジタルアーカイブの構築・運用のための知識を習得するとともに、実際のデジタルアーカイブ構築を経験する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course is an introduction to digital archives. Recent developments in information technologies are expected to solve a wide variety of issues in archiving. This course will be divided into two parts. The first half will outline the basic concepts of digital archives and briefly illustrate social changes related to digital archives and information technologies. The second half will explain the basics of information technologies related to digital archives. Further, we will touch on practice to develop a digital archive collection.

5. 学習の到達目標：デジタルアーカイブの意義や課題を、情報技術に関わる社会的な諸課題と結びつけて理解する。デジタルアーカイブ構築を経験する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The goals of this course are: (i) to understand the significance and issues of digital archives, particularly in connection with social issues caused by technological developments, and (ii) to gain experience in developing a digital archive.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・デジタルアーカイブとはなにか
2. デジタルアーカイブの多様性
3. デジタルアーカイブへの期待
4. デジタルアーカイブによる保管と継承
5. デジタルアーカイブによるアクセスの拡大
6. デジタルアーカイブが拓く可能性
7. デジタルアーカイブの活用 1：研究とデジタル・ヒューマニティーズ概論
8. デジタルアーカイブの活用 2：教育・アウトリーチ
9. 中間まとめ
10. 技術的な話題 1：概要
11. 技術的な話題 2：基礎
12. 技術的な話題 3：デジタル化の方法
13. 技術的な話題 4：サーバー、データベース、規格
14. 実習：デジタルアーカイブの構築
15. 最終まとめ

8. 成績評価方法：

受講態度 [20%]、レポート [40%]、演習の成果物 [40%]

9. 教科書および参考書：

以下を参考書として挙げる。

柳与志夫（責任編集）『入門 デジタルアーカイブ』（勉誠出版）

後藤真・橋本雄太（編）『歴史情報学の教科書』（文学通信）

10. 授業時間外学習：授業前に読んでおくべき資料を提示することがある。中間まとめ時にレポート、最終まとめ時にデジタルアーカイブの提出を求めるため、授業時間外に作成する必要がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

後半は PC の持参が必要な回がある。個人用の PC を持っていない場合は、初回のガイダンス時に相談すること。

科目名：人文社会科学特別講義Ⅰ／ Humanities and Social Sciences I (Special lecture)

曜日・講時：前期集中

セメスター：集中 (6), 単位数：1

担当教員：Henrik Bogdan ヘンリック・ボグダン

講義コード：LM98823

科目ナンバリング： 使用言語：英語



1. 授業題目：Occultism and Modernity

2. Course Title (授業題目)：Occultism and Modernity

3. 授業の目的と概要 (Course Objectives and Course Description)：

The course will focus on modern forms of esotericism from 19<sup>th</sup> century Spiritualism and Theosophy to esoteric New Religious Movements such as the modern Witchcraft movement (Wicca), Satanism and the New Age Movement. More specifically, the course will consider how esoteric practitioners responded to major changes in religion and spirituality due to the processes of modernity and secularization. By the end of the course, students will understand the major theoretical approaches to the study of occultism and be familiar with several forms of modern esotericism. Teaching will take place through eight 90-minute seminars and introductory lectures. Lively discussions, while decent and respectful, are encouraged.

4. 学習の到達目標 (Learning Goals)：

After completion of the course, the students are expected to: 1) Be able to account for key theories about and definitions of Western esotericism; 2) Be able to account for the history of Western esotericism from the Nineteenth Century to late modern times; 3) Demonstrate the ability to analyze key aspects of Western esotericism from the Nineteenth Century to late modern times; 4) Critically be able to interpret and evaluate discourses about esotericism from the Nineteenth Century to late modern times

5. 授業の内容・方法と進度予定 (Course Content, Methods, and Course Schedule)：

PART 1 (June 13-June 22)

**June 13, 13.00-14:30, Class 1, "Introduction"**

**Required reading:** Hanegraaff, Wouter J., "Esotericism Theorized: The Beginning of the Study of Esotericism" in *Religion: Secret Religion* (Macmillan Reference, 2016), [15 pp.].

Suggested readings:

Pasi, Marco: "The Modernity of Occultism: Reflections on Some Crucial Aspects" in Hanegraaff & Pijnenburg (eds.), *Hermes in the Academy* (Amsterdam University Press, 2009), [10 pp].

Pasi, Marco: "Esotericism Emergent: The Beginning of the Study of Esotericism in the Academy" in *Religion: Secret Religion* (Macmillan Reference, 2016), [11 pp].

**June 15, 13.00-14:30, Class 2, "Freemasonry, secrecy, and initiation"**

**Required reading:** Bogdan, Henrik & Snoek, Jan, "Freemasonry" in Christopher. Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [15pp].

Suggested Readings:

Bogdan, Henrik: "Esotericism Practiced: Ritual and Performance" in *Religion: Secret Religion* (Macmillan, 2016). [13 pp.]

Bogdan, Henrik: "Freemasonry and Western Esotericism" in Henrik Bogdan & Jan Snoek, *Handbook of Freemasonry* (Brill 2014), [26 pp].

### **June 20, 13.00-14:30, Class 3, "Spiritualism"**

**Required reading:** Bogdan, Henrik, "Western Esotericism and New Religious Movements" in Lewis & Tøllefsen (eds.), *The Oxford Handbook of New Religious Movements* (Oxford University Press, 2016), [12 pp].

**Suggested reading:**

Gutierrez, Cathy: "Spiritualism" in Glenn Alexander Magee (ed.), *The Cambridge Handbook of Western Mysticism and Esotericism* (Cambridge University Press, 2016), [11 pp].

### **June 22, 13.00-14:30, Class 4, "Theosophy"**

**Required reading:** Gomes, Michael, "H.P. Blavatsky and Theosophy" in Glenn Alexander Magee (ed.), *The Cambridge Handbook of Western Mysticism and Esotericism* (Cambridge University Press, 2016), [11 pp].

**Suggested readings:**

Hammer, Olav: "Theosophy" in Christopher Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [9 pp].

Partridge, Christopher: "Orientalism and the Occult" in Christopher Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [13 pp].

Tillett, Gregory: "Modern Western Magic and Theosophy" *Aries: Journal for the Study of Western Esotericism* 12:1 (2012), [36 pp].

## **PART 2 (July 6-18)**

### **July 6, 13.00-14:30, Class 5, "The Occult Revival"**

**Required reading:** McIntosh, Christopher: "Eliphas Lévi" in Christopher Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [11 pp].

**Suggested readings:**

Gilbert, Robert A., "The Hermetic Order of the Golden Dawn" in Christopher Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [9 pp].

Asprem, Egil: "The Society for Psychical Research", in Christopher Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [8 pp].

Johnston, Jay: "Gender and the Occult", in Christopher Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [10 pp].

### **July 11, 13.00-14:30, Class 6, "Aleister Crowley and Thelema"**

**Required reading:** Bogdan, Henrik, "Aleister Crowley: A Prophet for the Modern Age" in Christopher Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [10 pp].

**Suggested readings:**

Pasi, Marco: "Varieties of Magical Experience: Aleister Crowley's Views on Occult Practice" *Magic, Ritual, and Witchcraft* (2011), [40 pp].

Asprem, Egil: "Magic Naturalized? Negotiating Science and Occult Experience in Aleister Crowley's Scientific Illuminism" *Aries: Journal for the Study of Western Esotericism* 8 (2008) [24 pp]

Hedenborg-White, Manon: "To Him the Winged Secret Flame, To Her the Stooping Starlight: The Social Construction of Gender in Contemporary Ordo Templi Orientis" *The Pomegranate* 15 (2013), [18 pp].

### **July 13, 13.00-14:30, Class 7, "Witchcraft and Satanism"**

**Required reading:** Clifton, Chas: "Contemporary Paganism", in Glenn Alexander Magee (ed.), *The Cambridge Handbook of Western Mysticism and Esotericism* (Cambridge University Press, 2016), [10 pp].

**Suggested readings:**

White, Ethan Doyle: "The Creation of 'Traditional Witchcraft': Pagans, Luciferians, and the Quest for Esoteric Legitimacy" *Aries: Journal for the Study of Western Esotericism* 18 (2018) [29 pp].

Petersen, Jesper A.: "Modern Religious Satanism: A Negotiation of Tensions" in Lewis & Tøllefsen (eds.), *The Oxford Handbook of New Religious Movements* (Oxford University Press, 2016), [12 pp].

Petersen, Jesper A.: "The Seeds of Satan: Conceptions of Magic in Contemporary Satanism" *Aries: Journal for the Study of Western Esotericism* 12:1 (2012), [34 pp].

### **July 18, 13.00-14:30, Class 8, New Age and Occulture"**

**Required reading:** Baker, Brian: "The Occult and Science Fiction/Fantasy" in Christopher Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [14 pp].

**Suggested readings:**

Bogdan, Henrik: "The Order of the Solar Temple" in James R. Lewis & Jesper Aa. Petersen (eds.), *Controversial New Religions* (OUP, 2014), [14 pp].

Hammer, Olav: "New Age", in Christopher Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [9 pp].

Huss, Boaz: "The New Age of Kabbalah" *Journal of Modern Jewish Studies* 6:2 (2007), [15 pp]

Partridge, Christopher: "Occulture and Everyday Enchantment" in Lewis & Tøllefsen (eds.), *The Oxford Handbook of New Religious Movements* (Oxford University Press, 2016), [14 pp.].

**6. 成績評価方法 (Grading) :**

Students are expected to participate in class and complete a final exam, which will include essay questions that cover the readings and discussions. Exam essays will require that you reflect on your position regarding various topics and also that you provide evidence and reasoned argument in support of that position. In these essays, I expect much more than summaries and unsubstantiated opinions.

**7. 教科書および参考書 (Materials) :**

The required readings will be available online as PDF files.

**8. 授業時間外学習 (Out-of-hours learning) :**

Students will be expected to read at least one academic article or book chapter per class; those are indicated in as "required readings" in the above class schedule. Students should also, as much as possible, try to finish the "suggested readings."

**9. その他 (Others) :**

Class Participation: This course requires active participation from all students. The class is organized around discussions of course materials (scholarly articles, etc.). Students are expected to study all materials BEFORE each class session and to participate in the discussion by sharing their reasoned views on the topic.

Honesty: Please pursue rigorous honesty in everything you do, including your work for this class. It will serve you well in life, and in this class as well since we report all cases of suspected academic dishonest to the head of the department.

Use of E-mail for Official Correspondence to Students: E-mail is recognized as an official mode of university correspondence; therefore, you are responsible for reading your e-mail for university and course-related information and announcements. You are responsible to keep the university informed about changes to your e-mail address. You should check your e-mail regularly and frequently—we recommend daily, but at minimum twice a week—to stay current with university-related communications, some of which may be time-critical.

Problems or Criticism: If you don't understand something about the course or if you have specific points of criticism, do not hesitate to get in contact with me directly. If I don't hear about the problems, I have no chance of addressing them.